

A SHOT AT HAPPINESS

正しく知っておきたい、ボトックス・トリートメント

スマホの普及とともにますます切実になりそうな、眉間や目尻などの“表情ジワ”問題。

今こそ「ボトックス・トリートメント」を正しく理解しておきたい。

By Manabi Ito

美容医療のなかでもすっかり定着した感のある「ボツリヌス治療」、通称「ボトックス」。登場した当初、注射のみでシワが改善されると注目される一方で、ボツリヌス菌を打つなんて、という驚愕の声も多かった。実際にはボツリヌス菌そのものを打つわけではなく、無毒化したボツリヌス菌から抽出されるタンパク質の一種を使用。このタンパク質は、表情筋などの筋肉を動かすのに必要な“アセチルコリン”という神経伝達物質の働きを弱める作用がある。つまり、過剰に筋肉を動かさなくなるためにシワができにくくなるという仕組みだ。

「もともとは、眼瞼痙攣や斜頸といった疾患の治療薬として、眼科や神経内科などの医療の現場で使われていました。それが80年代後半ごろから、アメリカで美容医療として活用されるようになったんです。2002年にはFDA（アメリカ食品医薬品局）でシワ治療薬として認可されています。欧米ではもっともポピュラーな美容医療のひとつといっていますね」と言うのは、早くからボトックス・トリートメントを取り入れているあおいクリニック銀座の中野あおい先生だ。

日本では、欧米の認可のあとを追いついて、2009年に「ボトックスビスタ」という薬品が唯一厚生労働省の認可を受けている。「輸入品のなかには、安価で安全性がわからないものもあるのは事実。そのようなリスクを考えると、認可を受けている安全性の高い薬剤を扱っているクリニックを選択することは大事なポイントですね」（中野先生）

ボトックス・トリートメントという「シワは軽減されても、表情が乏しくなるのがイヤ」という意見も少なくない。口もとは笑っているのに目もとが無表情なハリウッドセレブや韓国女優をたまに見かけることがあるが……。

「欧米では、表情がなくなることを“アイアンマスク”と呼びます。一度にたくさん注入するとアイアンマスクになりやすい。最近は、表情筋の動きを見ながら時間をかけて注入する方法を取り入れているところが欧米でも増えていますね。私のクリニックでも2回に分けて少しずつ注入します。さらに、

以前は筋肉組織に注入するアプローチでしたが、最近では皮膚の浅い皮下組織にも細かく打つ“メソボトックス”と呼ばれる施術が人気です。ふたつの組織にアプローチすることで、シワ改善だけでなく、肌にハリが生まれ、リフトアップ効果も望めるのです」（中野先生）

ボトックス・トリートメントはここ数年で、単なるシワ治療の領域を越えてさまざまな治療に使われ始めているとい

う。「筋肉の動きやハリやリフトアップ効果を利用することで、メスなしでできる治療が増えてきています。例えば、口角周辺の4カ所に打つことで微笑んだ口もとを作ることが可能です。また、下まぶたの黒目の位置に注入すると目のフォームが丸くなり、黒目がちな可愛い目もとを作ることができます」（中野先生）。ほかにも脚痩せや発汗防止などにも応用されているという、ボトックス・トリートメント。さらなる進化に注目したい。

“認可を受けている
安全性の高い
薬剤を扱っている
クリニックを
選択することは
大事なポイントです”